

小集会プログラム

2日目 3月27日(土) 17:30 から 最長 20:30 まで

W01 (A会場 F20教室) 施設栽培ナス科野菜における在来捕食性天敵バンカーの開発

世話人 矢野栄二

W011 矢野栄二 (近畿大・農)

在来捕食性天敵バンカー開発の背景と意義

W012 安部順一郎 (近農研)

アブラムシ類防除のためのショクガタマバエバンカーの開発

W013 岡留和伸 (京都農技センター)

ハダニ類防除のためのミヤコカブリダニバンカーの開発

W014 ○古味一洋・中石一英・広瀬拓也・児玉幸信 (高知農技センター)

アザミウマ類防除のためのキイカブリダニバンカーの開発

W02 (B会場 F10教室) ~温故知新虫物語~ 本家・フェロモン屋

世話人 安居拓恵・秋野順治

W021 若村定男 (農生研)

第二世代の「フェロモン研究」：引き継いだものと引き継ぐもの

W022 山岡亮平*化学生態学研究室卒業生*修了生一同 (京都工繊大応生)

ある面白学問人生を振り返って。

W03 (C会場 F11教室) 第2回昆虫ホルモン談話会：20E以外のエクジステロイドの代謝制御と機能

世話人 篠田徹郎・丹羽隆介

W031 園部治之 (甲南大・理工・生物学)

エクジステロイドのリン酸化・脱リン酸化反応とその生理的意義

W032 小野 肇 (京大院・農)

ショウジョウバエにおける20Eとは異なるecdysoneによる発育制御

W033 丹羽隆介 (筑波大・生命環境)

エクジソン生合成酵素群はエクジソン生合成以外の役割を担うか？

W04 (D会場 D31教室) 多種多様な栽培形態で有効な飛ばないナミテントウ利用技術の開発

世話人 世古智一

W041 ○世古智一・三浦一芸 (近中四農研)

飛ばないナミテントウの利用法の開発：天敵能力の評価・解析

W042 ○柴尾 学・安達鉄矢・田中 寛 (大阪環農水総研)・世古智一 (近中四農研)

非結球アブラナ科野菜栽培におけるアブラムシ防除法の開発

W043 井口雅裕 (和歌山農試)

防虫ネット露地全面被覆シントウにおける飛ばないナミテントウによるアブラムシ類の防除

W044 ○国本佳範・小山裕三 (奈良農総セ)

キクでのアブラムシ防除への飛ばないナミテントウの利用

W045 ○須見綾仁・亀代美香 (徳島農水技セ)

トンネル栽培洋ニンジンに発生するモモアカアブラムシの防除法

W046 ○八瀬順也・田中雅也 (兵庫農技総セ)

イチゴのアブラムシ類に対する飛ばないナミテントウの防除効果と利用法

W05 (E会場 D32教室) カンキツグリーニング病小集会 ~媒介虫の移動分散と病害の拡大について考える~

世話人 井上広光・上地奈美・小堀陽一

W051 上地奈美 (果樹研・カンキツグリーニング病チーム)

大宜味村における山林のミカンキジラミ調査 (2009年)

W052 ○宮路克彦・松比良邦彦・中西善裕 (鹿児島農総セ大島)・篠原和孝 (鹿児島農総セ)

移動分散試験結果と緊急防除の事例からミカンキジラミの防除範囲を考える

W053 上里卓己 (沖縄防除セ)

カンキツグリーニング病の新規事業から見えてきたミカンキジラミの移動に関する情報

W06 (G会場 D34教室) 餌資源推定に対する様々なアプローチ：オサムシ科甲虫を例に
世話人 笹川幸治・池田紘士 コメント 岸本年郎

W061 ○奥崎穰（京大・理）・高見泰興（神大・人間発達）・曾田貞滋（京大・理）
体サイズに注目したオオオサムシ亜属の餌利用推定：飼育実験によるアプローチ

W062 ○池田紘士(京大・理)・久保田耕平(東大院・農)・香川聡(森林総研)・曾田貞滋(京大・理)
オサムシ科ゴミムシ亜科甲虫の餌利用推定：安定同位体によるアプローチ

W063 笹川幸治（東大院・広域）
オサムシ科昆虫による散布前種子捕食：野外観察によるアプローチ

W07 (H会場 D42教室) 第40回ハダニ談話会

世話人 後藤哲雄・日本典秀

W071 ○佐藤幸恵（農環研・JSPS）・齋藤裕（北大・農・動物生態）
社会性ハダニにおける攻撃性の異なる2型—ハダニにおける種分化研究の一例として—

W072 前田太郎（農生研）
植物の防御反応と天敵利用

W08 (I会場 D43教室) 第16回日本ICIPE協会研究報告会：

ネムリユスリカ研究の最前線 - 極限乾燥耐性のメカニズム

世話人 佐藤宏明

W081 ○黄川田隆洋・奥田隆（農生研・乾燥耐性）
ネムリユスリカの極限乾燥耐性

W082 ○Richard Cornette（農生研・乾燥耐性）
ネムリユスリカとアンヒドロビオシス：乾燥耐性の分子メカニズムを求めて

W083 金森保志（農生研・乾燥耐性、京工繊大）
ネムリユスリカのゲノム構造から見えてきた乾燥耐性獲得の進化過程

W084 中原雄一（農生研・乾燥耐性、帝京大・医）
極限的環境に対するネムリユスリカの交叉耐性—乾燥幼虫は不死身か？—

W09 (J会場 D31教室) 果樹の難防除害虫研究会 -モモシクイガに関する新知見と省農薬化の展望-

世話人 高梨祐明・望月文昭

W091 藤井達也 (信越化学工業)

モモシクイガの性フェロモンに関する報告

W092 ○那須義次(大阪防除所)・玉嶋勝範(大分農水研)・柴尾 学(大阪環農総研)・吉松慎一(農環研)・内藤尚之(信越化学)

モモシクイガとその近縁種*Carposina niponensis*およびモモシクイガの合成性フェロモン
トラップに誘殺されるシクイガ類

W093 石栗陽一 (青森産技セ・りんご研)

モモシクイガ幼虫のリンゴ果実内における発育

W10 (K会場 D53教室) 交尾器研究最前線:進化学・行動学との接点

世話人 立田晴記・松村洋子

W101 立田晴記 (琉球大・農)

交尾器研究再考:過去から未来へ

W102 松村洋子 (北大・農・昆虫体系)

極端に長い交尾器はなぜ進化し得たのか:伸長を可能にした前適応

W103 上村佳孝 (慶應大・生物学教室)

ショウジョウバエ類の交尾器進化:ここでも「モデル」になりうるか?

W104 ○田中隼人・塚越哲 (静大院・創造)

間隙性貝形虫類(甲殻類)における生殖隔離と交尾器の形態進化

W105 土屋香織 (首都大)

カワトンボ類における精子置換のしくみと雌雄の生殖器の進化

W11 (L会場 D54教室) 侵略的外来昆虫問題 その1 — 外来生物法と外来昆虫

世話人 五箇公一・光畑雅宏

W111 光畑雅宏 (アリスライフサイエンス (株))

外来種ポリネーターに依存する我が国の果樹、果菜生産：特定外来生物セイヨウオオマルハナバチと不足が続くセイヨウミツバチ

W112 ○井上真紀・五箇公一 (国立環境研究所)

外来アリ類の侵略的特性と防除対策～アルゼンチンアリとヒアリを例に～

W113 ○五箇公一・所諭史 (国立環境研) ・立田晴記 (琉球大)

人気者の外来種外国産クワガタムシ：DNAと形から見た進化的重要単位

W114 高桑正敏 (神奈川県立生命の星・地球博物館)

アカボシゴマダラの分布拡大と、それに対する蝶愛好家の受け止め方

W115 岡部貴美子・升屋勇人 (森林総研)

木材に随伴侵入して侵入する生き物たち～昆虫、ダニ、センチュウ、菌～

W116 桐谷圭治 (伊東市)

外来害虫問題：過去・現在・未来

3日目 3月28日(日) 16:15 から 最長 19:15 まで

W12 (C会場 F11教室) 侵略的外来昆虫問題 その2 — 植物防疫の現在と未来

世話人 浦野 知・守屋成一

W121 森本信生 (農研機構・中央農研)

日本の外来昆虫相の特徴

W122 増田俊雄 (宮城農園研)

アシグロハモグリバエの発生状況—トマトハモグリバエとの関係は?—

W123 徳田 誠 (九大・高推セ)

侵入害虫としてのゴール形成タマバエ類

W124 佐藤 雅 (横浜植防)

日本の植物検疫について

W13 (D会場 D31教室) 導入天敵から侵略的外来種へ：ナミテントウがもたらすリスク

世話人 鈴木紀之・大澤直哉
コメント 安田弘法・大澤直哉

W131 鈴木紀之（京大院農・昆虫生態）・大澤直哉（京大院農・森林生態）

導入天敵から侵略的外来種へ：ナミテントウがもたらすリスク

W132 大澤直哉（京大院農・森林生態）

ナミテントウの海外侵入の現状と問題点

W133 ○世古智一・三浦一芸（近中四農研）

遺伝的に飛ばないナミテントウが生態系攪乱をもたらす可能性の検証

W134 ○佐藤 智・安田弘法（山形大・農）・大澤直哉（京大院農・森林生態）

ギルド内捕食が発生するメカニズムとその影響について

W135 ○鈴木紀之・西田隆義（京大院農・昆虫生態）・大澤直哉（京大院農・森林生態）

原産地における近縁種クリサキテントウとの共存メカニズム

W14 (E会場 D32教室) 新害虫の発生生態およびその適応戦略

世話人 八瀬順也・野村昌史

W141 ○徳丸 晋（京都農林水産部）・上山 博（京都防除所）

緑化樹害虫を考える～侵入害虫プラタナスグンバイの発生生態と防除対策～

W15 (F会場 D33教室) 新規天敵スワルスキーカブリダニの利用について

~実場面での使用状況と新たな普及の可能性を考える~

世話人 宮田将秀・森田茂樹

- W151 ○森田茂樹・柳田裕紹・石井貴明(福岡農総試)・嶽本弘之(福岡県庁)
福岡県の施設果菜類におけるスワルスキーカブリダニの利用と普及上の課題
- W152 ○柴尾学・安達鉄矢・田中寛(大阪環農水総研)・山中聡(アリスタライフサイエンス(株))
大阪府の半促成ナスにおけるスワルスキーカブリダニの利用事例と普及上の問題点について
- W153 ○桃下光敏・山中聡・柏尾具俊(アリスタライフサイエンス(株))
全国での普及状況と現地実証試験結果のレビュー
- W154 ○眞壁敏明・川嶋幸喜・青木隆(神奈川農技・根府川)・山中聡(アリスタライフサイエンス(株))
施設カンキツにおけるスワルスキーカブリダニの各種放飼時期での効果・定着性
- W155 ○大矢武志・二村友彬(神奈川県農業技術センター)
トマト栽培での活用は想定できるのか?
- W156 ○宮田将秀(宮城農園研)・原田幸治郎・山中聡(アリスタライフサイエンス(株))
スワルスキーカブリダニに対する数種薬剤の影響

W16 (G会場 D34教室) 殺虫剤作用機構談話会(故河野義明教授追悼記念シンポジウム)

世話人 本山直樹・宮田正・園田昌司・水口智江可・塩月孝博・松田一彦
協賛 日本農薬学会

- W161 坂井道彦(元武田薬品農薬研究所)
農薬会社時代の河野義明君と当時の研究課題
- W162 宮田正(名古屋大学)
コナガの殺虫剤抵抗性研究の過去・現在・未来
- W163 富田隆史(国立感染症研究所)
殺虫剤抵抗性蚊におけるシトクロムP450遺伝子の過剰発現
- W164 古崎利紀(農業生物資源研究所)
変異型アセチルコリンエステラーゼの種による変異
- W165 ○塩月孝博・坪田拓也(農業生物資源研究所)
ゲノム研究から見えてきた昆虫カルボキシエステラーゼの特徴

W17 (H会場 D42教室) アリをめぐる生物種間の相互作用

世話人 秋野順治・坂本洋典・萩原康夫

W171 小松 貴 (信州大・理)

好蟻性昆虫アリヅカコオロギ属について

W172 ○半田千尋・市岡孝朗 (京大院・人環)

アリ-カイガラムシ-オオバギ共生系における三者間の関係とその推移

W173 ○大西義浩・鈴木信彦 (佐賀大・農)

コニシキソウにおけるアリの種によって異なる種子散布様式

W18 (I会場 D43教室) 生態系に対する昆虫の役割

世話人 片山 昇

W181 ○片山 昇・Alessandro Oliveira Silva・大串隆之 (京大・生態研セ)

生態系の中での窒素動態に対するアブラムシの役割

W182 加賀田秀樹 (京大・生態研セ)

植食性昆虫の糞が生態系プロセスに果たす役割

W183 藤井佐織 (京大院・農)

分解系における土壌小型節足動物の役割; 窒素無機化に対するトビムシの影響

W184 山田明德 (京都大・森林生態)

分解系における土壌大型節足動物の役割; 熱帯の炭素循環とシロアリ

W19 (J会場 D44教室) 水田生物多様性に対する苗箱処理剤の影響評価の総合的考察

世話人 日鷹一雅・本林隆・五箇公一

W191 ○向井康夫(京大・地環)・野村進也・日鷹一雅(愛媛大・農)・石井 実(大阪府大院・農生)
水生昆虫の水田利用様式の視点から

W192 日鷹一雅(愛媛大・農)・○本林 隆・井上雄樹(農工大・農)
薬剤感受性の種多様性の視点からー数種の箱処理剤に対する水生鞘翅目昆虫の感受性についてー

W193 ○渡邊裕純・Dang Quoc Thuyet・Dang Quoc Tyuy・本林隆(農工大)・五箇公一(国環研)
農薬の物理化学性が水田環境での曝露リスクへ及ぼす影響

W194 ○井上栄明・山口卓宏(鹿児島県農総セ)
水稻苗箱処理剤を使用している現場から

コメント 五箇公一

W20 (K会場 D53教室) 生物間相互作用の情報科学 その7

~ガの性フェロモン研究の50年とこれから

世話人 大村 尚・今野浩太郎・森 直樹・小野正人

W201 安藤 哲(農工大院 BASE)
蛾類性フェロモンの生物有機化学：
天然物化学の立場から応動昆の領域を多少？はみ出して

W202 ○中 秀司(鳥取大・農)・有田 豊(名城大・農)・安藤 哲(農工大院・BASE)
「昼蛾」の性フェロモンと配偶行動ー視覚と嗅覚を併用する配偶行動戦略

W203 田端 純(農環研)
アワノメイガ種群における性フェロモンの分化